

# 授業やゲームし、互いの文化理解

## 台湾の大学生ら来津し交流

津山商高訪問  
打ち解け“笑顔”



楽しそうにコミュニケーションをとる台湾の学生と津商生

台湾の大学生らが12日、津山商業高校（山北）を訪れ、生徒たちと英語の授業を一緒に受けたり、ゲーム、部活動見学などを行い交流した。

日本政府が進める青少年交流事業「JENESYS2・0」の一環で、一行は8～15日の日程で来日。国立清華大や同台南大、私立淡江大などの大学生、大学院生25人と引率者

1人を、国際ビジネス科の2、3年生約60人が迎えた。最初に2年生と英語の授業を一緒に受け、自己紹介のほかに趣味、好きなものなどを質問し合い、互いの文化にふれた。

3年生とはゲームで交流。台湾でもおなじみの「あっち向いてホイ」や、グループになり手をつないで行うゲームなどを実施。会場は英語、中国語、日本語が飛び交い、すぐに打ち解け笑顔があふれていた。

「台湾の大学生との会話は楽しかったが、もどかしさもあった。もっと英語を勉強しないと訪れる予定。ければと痛感した」と2年生の山口慧さん。游慧湘さん(21)は「皆親切でゲームなど楽しくできた。見学しただけじゃ自然のふしぎ館には、台湾のチョウも展示されていて驚いた。台湾でも有名なアニメNARUTOの展示（奈義町現代美術館）を見るのも楽しみ」とほほ笑んだ。

市内滞在は12～14日で1泊は生徒宅などにホームステイ。津山高専生との交流もある。また、東京都や岡山市で若者らとふれあい、観光、企業見学などを行った。最後は神戸市を訪れる予定。